

1998年の九州地方の気象概況

九州・沖縄地域における1998年の天気の特徴は暖冬多雨、春も高温で多雨寡照であり、夏は北陸・東北地方の梅雨明けなしの異常な夏で経過した。台風の発生が観測開始以来最も遅く(7月9日)、個数(16個)も最低であったにもかかわらず、日本への上陸した個数(4個)は多かった。秋は暖かく推移し、初冬も暖かく少雨であった。

本年の気象の歳時記についてみると、長野冬季五輪開催で始まり、競技のための雪は豊富であったが悪天候に泣かされた。九州の桜の開花は早く、熊本市で平年より9日早い3月17日に開花した³⁾。また梅雨は九州南部が5月28日で、北部が6月2日で、梅雨明けは九州南部が7月1日(平年7月13日頃)で、北部が7月6日(平年7月18日頃)と発表した⁴⁾が、後に8月3日頃と修正を行う事態であった。

上陸・接近した台風は第2図に示すように第5号、6号、7号、8号、9号および10号で、前者5個の台風被害の実態は全国で死者が30人前後、農林水産関係の被害額が約2,128億円と大きかった。今年の台風は北緯20度以北の高緯度で発生し、日本接近時期に前線が停滞することが多く、台風北上に伴い前線が活発になって北陸から関東以北で大雨が降ったことが特徴である²⁾。

また、昨年から続いていたエルニーニョ現象は6月に解消したが、中国長江大洪水、シベリア大洪水、アメリカの熱波など異常気象の多発が世界的にみられた¹⁾。

本年の九州地域内における旬別気象の変化と平年値の比較については、第1表と第1図に示し、現象の特徴については下記に述べる。

1. 温暖で多雨な冬

1月上旬・中旬は一時的な気圧配置や低気圧の影響で各県とも曇りや雨の日が多く、特に8日と14～15日にかけて各地で100mm前後の大雨が降った。下旬は冬型の気圧配置となる日が多く、この冬一番の寒気が流入し、九州北部を中心に降雪があった。25日の最低気温は内陸部を中心に各地で極値を更新した。各地の月平均気温は佐賀・熊本・宮崎で平年よりやや高く、福岡・長崎・大分で平年並み、月降水量は長崎で平年よりやや多いほかはかなり多く、月間日照時間は鹿児島で平年並み、福岡・熊本で平年よりかなり少なかった。

2月上旬は低気圧や前線通過の影響でぐずついた天気の日が多かった。9日夜から10日にかけて対馬海峡を低気圧が発達しながら通過したため南よりの強風が吹き(阿蘇山で南西の風最大瞬間風速35.2m/s)、九州北部地方で「春一番」となった。中旬は周期的に天気に変化し、所によっては100mm以上の大雨が降った。下旬はぐずついた天気の日が多く、九州南東部を中心に大雨となった。各地の月平均気温は平年よりかなり高く、月降

水量は福岡・佐賀・熊本で平年並み、宮崎でかなり多く、そのほかはやや多く、月間日照時間は福岡・佐賀・大分で平年並み、そのほかは平年よりやや少なかった。

2. 高温・多雨・寡照な春

3月上旬は高気圧と低気圧が交互に九州付近を通過し、天気は周期的に変化した。中旬は概ね高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、福岡では19日夜最大瞬間風速31.1m/sを観測し、筑肥線の列車が脱線する被害が発生した。下旬は九州南海上を通過する低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かったが、終わり頃は移動性高気圧に覆われて晴天となった。各地の月平均気温は福岡・大分で平年よりかなり高い他はやや高く、月降水量・月間日照時間は平年並みであった。

4月上旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多かった。中旬の天気は周期的に変化した⁵⁾が、寒冷前線の南下や上空への寒気の流入により大気の状態が不安定となり九州北部中心に雷雨やひょう・あられを観測した。下旬前半は前線の停滞でぐずついた天気が多く(奄美地方梅雨入り4月25日頃)、後半は晴れの日が多くなった。各地の月平均気温は平年より高く、月降水量は福岡・宮崎・鹿児島で平年よりかなり多い他はやや多く、月間日照時間は大分・宮崎・鹿児島で平年並みの他はやや少なかった。

5月上旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、各地でまとまった雨が降った。中旬は上旬と同様にぐずついた日が多く、九州北部地域で100mm以上の大雨となった(和多田:277mm、枝去木:217mm)。下旬の天気は周期的に変化し、九州南部地方は平年より5日早く5月28日頃梅雨入りした。各地の月平均気温は平年よりかなり高く、月降水量は福岡で平年よりかなり多く、鹿児島でやや多い他は平年並み、月間日照時間は長崎・佐賀で平年より少ない他はかなり少なかった。

3. 台風の発生もなく安定しない夏の天気

6月上旬は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く時々まとまった100mm以上の雨が降り、九州北部地方は6月1日頃梅雨入りした。中旬の天気は周期的に変化し、各地で大雨を降らせた。下旬は梅雨前線の活動が活発で雨の日が多かったが、九州南部では太平洋高気圧の勢力が強まり、前線の北上に伴って真夏日が多くなった。各地の月平均気温は宮崎で平年よりかなり高い他はやや高く、月降水量は長崎・佐賀・熊本でかなり多く、福岡・大分・宮崎でやや多く、月間日照時間は大分・熊本で平年並みの他はやや少なかった。

7月上旬は前線が対馬海峡に停滞し大気の状態が不安定となりまとまった雨が降った。その後九州南部と共に太平洋高気圧の勢力が強まり晴れて連日真夏日の厳しい

暑さとなった。九州南部地方は7月1日頃梅雨明けした。中旬は全般に太平洋高気圧に覆われ晴れて蒸し暑い日が続いた。下旬は太平洋高気圧の勢力が弱く、低気圧や梅雨前線および気圧の谷の影響で雨や曇りの日が多かった。各地の月平均気温は宮崎で平年よりかなり高く、福岡で平年並み他はやや高く、月降水量は福岡・長崎・鹿児島で平年並みの他はやや少なく、月間日照時間は鹿児島で平年よりやや多く、その他は平年並みであった。

8月上旬は初め太平洋高気圧の周辺部となっていたが、3日以降は太平洋高気圧に覆われ夏型の気圧配置で安定した天気が続いた。九州北部地方は8月3日頃梅雨明けした。中旬は全般に太平洋高気圧に覆われ晴れて蒸し暑い日が続いた。下旬は太平洋高気圧の勢力が弱まり大陸からの高気圧に覆われるようになって晴れて日中の残暑が厳しく所によってにわか雨もあった。各地の月平均気温は佐賀で平年よりやや高い他はかなり高く、月降水量は福岡で平年よりやや多く、熊本・宮崎・鹿児島ではかなり少なかった。月間日照時間は宮崎・鹿児島で平年よりかなり多く、福岡・佐賀・大分で平年並みであった。

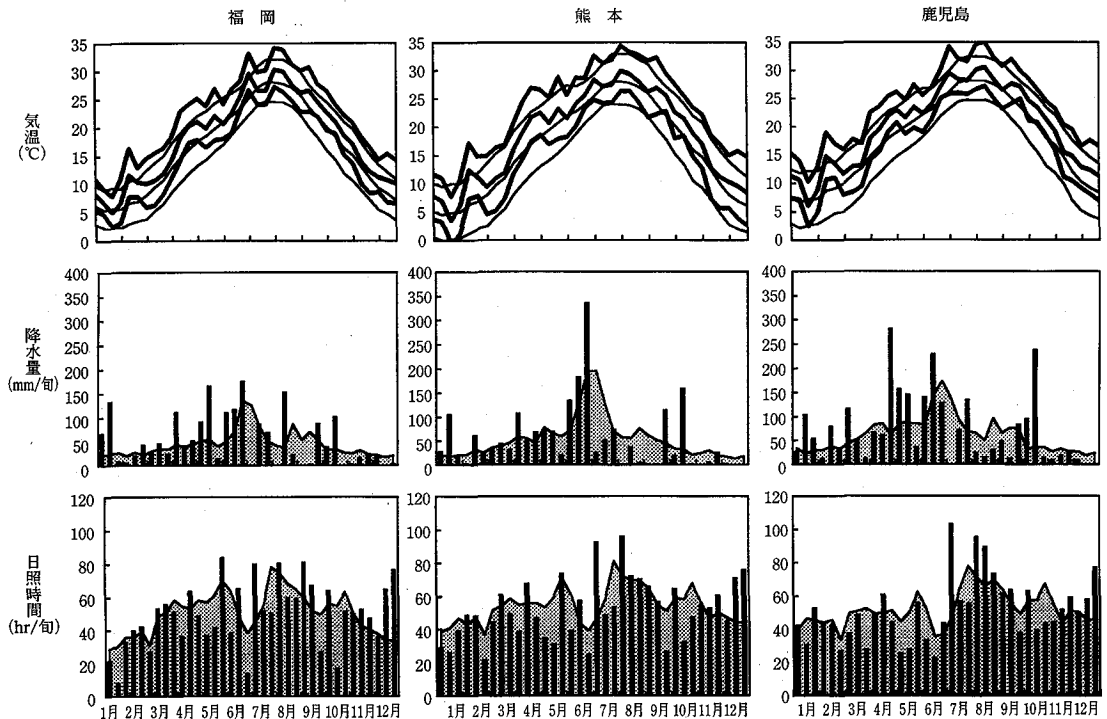
4. 暖かく雨が多い秋

9月上旬前半は高気圧に覆われ晴れの日が多かったが、後半は前線に伴った低気圧の通過によりまとまった雨が降った。中旬は全般に高気圧に覆われ晴れの日が多か

たが、台風5号、6号の間接的影響で竜巻(宮崎市)の発生や大雨(大分県南部)がみられた。下旬は前線や台風(7号)の間接的影響を受け、ぐずついた天気の日が多かった。各地の月平均気温は福岡・佐賀・長崎・熊本で平年よりかなり高く、月降水量は大分で平年よりやや多く、熊本・宮崎で平年並み、福岡・長崎・鹿児島でやや少なく、月間日照時間は福岡・佐賀で平年よりやや多く、大分・熊本・宮崎は平年より少なかった。

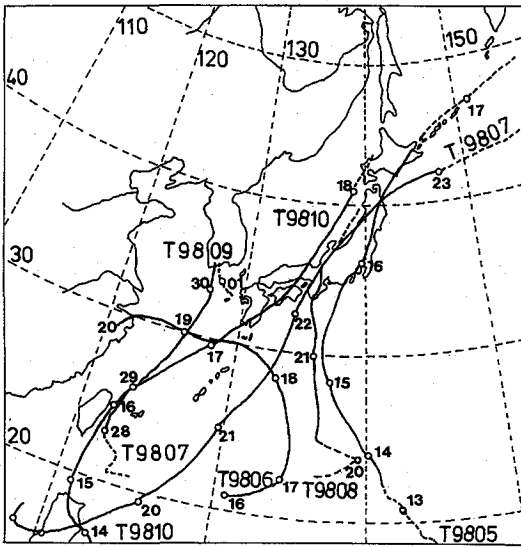
10月上旬は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。中旬は低気圧や前線および台風の影響でぐずついた天気の日が多かった。台風10号が17日に枕崎市付近に上陸し、最大瞬間風速37.7m/sを観測した。大分県中部と南部では300mmを超える大雨となった。下旬の天気は周期的に変化し、各地とも気温の高い状態がつづいた。各地の月平均気温は各地とも平年よりかなり高く、月降水量は福岡・長崎・佐賀で平年よりやや多かった他はかなり多く、月間日照時間は佐賀・大分・宮崎で平年よりやや少ない他はかなり少なかった。

11月上旬は九州北部で高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、南部では前線や低気圧の影響でぐずついた天気の日が多かった。中旬の前半は大陸からの高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は冬型の気圧配置となり曇りや雨の日が多く、初冠雪や初霜がみられた(17~20日)。下旬の天気は周期的に変化し、各地でま



第1図 1998年の福岡・熊本・鹿児島気象概況

注) 細線は平年値、太線と棒柱は1998年の値である



第2図 1998年の日本に上陸した台風の経路図

とまった雨が降った。各地の月平均気温は各地で平年よりやや高く、月降水量は長崎で平年並みの他はやや少なく、月間日照時間は佐賀で平年よりかなり多く、大分・宮崎・鹿児島で平年並みの他はやや多かった。

5. 穏やかな初冬

12月上旬前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は冬型の気圧配置となって曇りや雨の日が多くなった。中旬は全般に高気圧に覆われて安定した晴れの日が多かった。下旬の前半は高気圧に覆われて気温の高い穏やかな日が多かったが、後半は冬型の気圧配置となり気温が下がりがずつとした天気となった。各地の月平均気温はかなり高く、月降水量は宮崎で平年よりやや少ない他は平年よりかなり少なく、月間日照時間は宮崎で平年並みの他は平年よりかなり多かった。

6. むすび

1998年の気象概況は全国的に温度が高く推移し、地球温暖化の影響ではないかとささやかれている状況であった。また、本年の夏は夏型の天気が安定せず、梅雨明け不明瞭であった北陸・東北地方にかけての水稻、野菜および果樹の産地は大雨と台風が重なって被害が甚大で、加えて温暖の影響による冬野菜の品不足が生じ、全国的に野菜価格の高騰を招いた。一方、九州は春の高温と多雨で麦類に赤かび病などが多発し、収量と品質低下の被害が大きくなったが、水稻を含む農作物の気象災害被害は少なく、平穏な一年であった。

(九州農業試験場生産環境部)

引用文献

- 1) 平沼洋司：(1998) 気象 No500, 38-42.
- 2) 宮平 操：(1999) 気象 No501, 12-15.
- 3) 中島寿美夫：(1998) 気象 No495, 36-38.